



今回の学会長は日本医科大学の吾妻先生でした。抗線維化薬ピレスパ(ピルフェニドン)がまだ米国でしか使われていない時期に泉理事長(当時の京都大学医学部胸部疾患研究所教授)からの勧めで、私は米国より個人輸入をして進行した間質性肺炎患者さんに投与してみて成果(主に安全性)を報告して以来、開発の過程にも関わり、吾妻先生とは米国の検討会議などでも一緒に経緯があります。昨今の医薬事情の中で、国際会議をパシフィコ横浜で開催することを実行されたことは、まさに大変であったろうなと思いつつ、一参加者としてその機会を堪能させていただいたわけです。はじめの日は晴天に恵まれて、横濱の港の景色を眺めながらの参加でしたが、丸二日半、中座もせずに、多少の居眠りはお許し願うとして、学会参加に明け暮れたのでした。

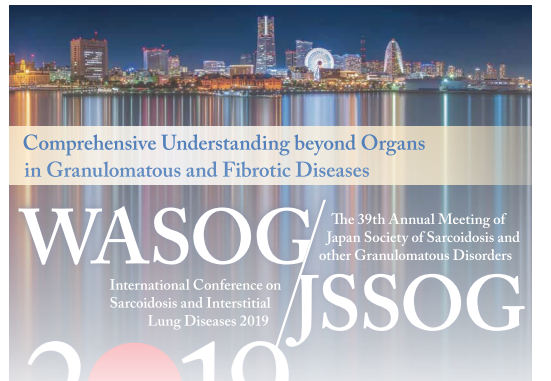
酷暑と残暑と台風およびその災害で疲弊を感じるのが今年の秋を迎える日々の特徴であったかと思えます。このような中で、一〇月九日から一日に予定されていた国際会議と日本の年次総会とが開催されました。まさに台風十九号が関東に接近しつつある中での開催でした。外国からの参加者も少なくなるのではないかと懸念していましたが、実際の学会に参加してみるとその杞憂は失せて、欧米、アジアからの参加者が目を引く状態でした。

私は、国際学会がWASOG (World Association on Sarcoidosis and Other Granulomatous Diseases)と命名された経緯の前後をアクティブに参加していた一人として知っていますので、欧米からの懐かしい先生たちと再会できただけでも意義のある学会でした。

International Conference on Sarcoidosis and Interstitial Lung Diseases

2019年国際サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会と第39回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会に参加して

中央診療所長・臨床研究センター長 長井苑子



日本の学会の会議が学会開始前にあり、まだ病名の認可の取れないメトトレキサートをサルコイドーシスの治療薬として厚生労働省に認可してもらおうには患者会からの圧力が必要であることなどを提案してきました。学会雑誌の編集会議では、このような国際会議の記録は英語原稿そのものではないと意欲ありでした。学会では、最初の口頭発表の司会を、米国のクリーブランドクリニックのDaniel A. Culver先生とともにやることとなり、四題の発表の質疑応答でした。ここでも、自分の経験からコメントを話せたのは、臨床現場でじっくりと過ごしたおかげかなと感じました。Culver先生は臨床治療やサルコイドーシスの研究に今まさに中心となって活躍中の先生でした。

阪大の坂口志文先生の抑制性T細胞と免疫反応制御という特別講演を拝聴しました。きわめて早口で、ご自分の蓄積された仕事のスライドの紹介が継続しての六〇分間でした。本音を言うとう、サルコイドーシスという免疫亢進が主体ではあるが、また自然に治りうる場合と、さらなる悪化へと向かうプロセスはまだ多くのことが分かっておらず、先生の切り口で考えれば、サルコイドーシスの免疫反応をどう考えるかなどという「無いものねだり」の期待をしていたことに関しては、お話しはありませんでした。

サルコイドーシスの治療をいつから始めるのか、いつまで継続するのかという問いかけは、今から半世紀も前から問われている課題です。幸い、多くの患者さんは安定期を長く過ごせて、寿命にも基本的な影響はない病ですから、切羽詰まった緊急課題にはならないとはいえ、一〇〜二〇%の難治化する患者さんには、解決の欲しい課題です。米国のRobert P. Baughman先生は米国シンシナチでサルコイドーシスの治療にメトトレキサートをセカンドラインの治療薬として積極的に使われてきた先生です。二〇〇五年には、私も米国デンバーで全世界から四百例のサルコイドーシス症例を持ち寄って、五年目を慢性化した時期と決めて、サルコイドーシスほどのような臨床経過をたどるかの分類作業に参加しました。この五年目を慢性化したと定義して評価するにあたっては、泉先生の健診発見無症状の基本的な成果がもととなりました。

紙面の関係上、簡単に付け加えますと、サルコイドーシス以外に、間質性肺炎とその抗線維化薬による治療もこの学会でのハイライトでした。早期に使うと予後がよくなるという基本的な理解ではありませんが、サルコイドーシスの難治化の主体である線維化に有効であるとの発表は残念ながらもなかったようです。



▼第15回サルコイドーシス、膠原病・患者・医療関係者交流会
日時：令和元年10月26日(土)午後2〜5時
会場：ハートピア京都3F大会議室
①挨拶…人生百年時代雑感/泉 孝英
②講演…ステロイドの話第6回/長井苑子
③講演…本当はこわい下肢静脈血栓、動脈硬化 上田清源(検査部長)
④講演…痛みとのつきあい方/荻野俊平(神経内科)
⑤演奏…セカンド・ウインド(アンサンブル)

交流会・健康塾
交流会では、自分の臨床経験からの課題をもつて参加すると、どのような発表でも、それなりにヒントやこれではいけないとかマイナスの認識、あるいは新しい課題が認識されるものです。温故知新の課題と、技術の進展に支えられた新しい切り口と、旧知の人々との交流とで充実した参加となりました。これをまた日常診療にいい形で還元できればと思います。

サルコイドーシスの原因の討議もされました。東京医科歯科大学の江石先生は、プロピオニバクテリウムアクネス菌仮説をまとめて発表されました。山口哲生先生はこれを臨床的な側面からも支持する発表をされました。米国からは、Wonder P. Drake先生が結核菌説を、Andrew P. Fontenot先生は、T細胞のどのようなタンパクが病態発生に関与しているかを検討する方法を話されました。心臓サルコイドーシスについての演題も多く、心臓病変しかならない場合の診断、診断の新しいガイドラインなども発表されました。

●診察時間

	月	火	水	木	金	土
平日 9~11時	○	○	○	○	○	○
土曜 9~12時	○	○	○	○	○	○
13~15時	○	○	○	○	○	×
17~19時	○	×	×	×	○	×

●診療のご案内 専門外来は要予約 TEL 211-4502

一般外来 内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科
専門外来 喘息・アレルギー/サルコイドーシス・間質性肺炎・肺線維症/膠原病・リウマチ/心臓病・肝臓病/糖尿病/生活習慣病・高血圧/神経内科/総合診療科/睡眠時無呼吸相談外来
禁煙外来/セカンドオピニオン

〈検査〉 腹部・頸部・心臓超音波、胃部X線、胃カメラ
X線CT、骨密度他

健康診断・人間ドック 定期・雇入・特定健康診断
半日人間ドック、健康相談

ご予約 外来診療 TEL 075-211-4502
ご質問 健康診断・人間ドック TEL 075-211-4503

外来のご案内

診察時間	平日 9:00~11:00 土曜 9:00~12:00	13:00~15:00	17:00~19:00
月	泉(呼吸器内科・一般) 長井(呼吸器内科)* 荻野(総合内科・脳神経内科)	担当医 第1週(一般) 長井 第2~5週 (呼吸器内科・一般) 荻野(総合内科・脳神経内科) 吉田(循環器内科・一般)	担当医(一般)
火	泉(呼吸器内科・一般) 酒井(循環器内科) 長井(呼吸器内科)*	長井(呼吸器内科・一般)*	休診
水	中山(内分科・呼吸器内科) 荻野(総合内科・脳神経内科) 谷澤(呼吸器内科・一般)	長井(呼吸器内科・一般)* 横松(循環器内科・一般) 谷澤(呼吸器内科)	休診
木	酒井(循環器内科) 森下(一般) 荻野(総合内科・脳神経内科)	荻野(総合内科・脳神経内科)	休診
金	泉(呼吸器内科・一般) 森下(一般)	長井(呼吸器内科・一般)*	上田(循環器内科・一般) 浅沼 第1, 2, 5週(一般) 大田 第2週(一般) 担当医 第4週(一般)
土	長井 毎週(呼吸器内科・一般)* 市川 毎週(内分科・呼吸器内科・一般) 半田 第1, 3, 5週(呼吸器内科・一般)*		★土曜の午後は休診です

*間質性肺炎疾患：サルコイドーシス、膠原病など

▼第19回健康塾(予定)
日時：令和2年3月14日(土)午後2〜4時
会場：コープイン京都2F

▼第15回治療に関する患者・医療関係者交流会(予定)
(在宅酸素療法、薬物、栄養、リハビリテーション)
日時：令和2年4月18日(土)午後2〜5時
会場：ハートピア京都3F大会議室

ラウンジセミナー

●令和元年10月8日…リウマチ治療薬 エタネルセプトBS皮下注
●令和元年11月12日…肺高血圧症治療薬オプスミット
●令和元年12月10日…高尿酸血症治療薬トピロリック
●令和2年1月14日…経口抗菌剤ラスビック